

平成27年度（ 数学 ） 授業改善推進プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	クラス分けを定期テストの結果や本人の希望により調整していくが、標準コースが多くなってしまい、人数調整が難しい。基礎コースの中でも、基礎学力の違いから、授業に対する意欲や集中度に差異が生じ、その維持が難しい。授業中で特に習熟の遅い生徒に対する個別の対応は、時間的に限界があり、十分といえない状況である。	正負の数・文字式・方程式については、一律の進捗で授業を進めてきたが、理解度に差が出ると予想される比例反比例からは、コースの理解度に応じて進め、学習意欲のさらなる進展を図る。また、継続的に行ってきた毎時間の宿題の提出による定着度の確認と評価は、今後も続けていく。定着を促すためにも小テスト等を実施し、技能をあげる。	アイ：副教材等の課題学習で、A（基本～標準）問題・B（標準～発展）問題を利用しながら個々の理解度に合わせて進めていく。 また、基礎コースでは、例題も「問題」として解かせ、例題の解答を解答例として活用したり、問題練習をできるだけ多く取り入れる。 ウ：K中ベーシックの利用 エ：習熟度別授業
第二学年	クラス分けを定期テストの結果や本人の希望により調整していくが、標準コースが多くなってしまい、人数調整が難しい。標準コースと発展コースの境界線上の生徒は、所属するコースにより授業に対する意欲や集中度に差異が生じ、その維持が難しい。授業中の習熟の遅い生徒に対する個別の対応は、時間的に限界があり、十分といえない。	計算ミスを起こしやすい箇所を指摘しながら、生徒が正確に問題を解けるよう指導をしていく。演習時間を多く確保し、繰り返し学習を行っていく。単元ごとに、生徒の実態にあったクラス分けを行っていく。授業内で生徒の発言の機会を増やし、生徒同士が刺激を与えることのできる授業環境をつくっていく。毎時間の宿題の提出による定着度の確認と評価は、今後も続けていく。小テストも定期的実施する。	アイ：副教材等の課題学習で、A（基本～標準）問題・B（標準～発展）問題を利用しながら個々の理解度に合わせて進めていく。 また、基礎コースでは、例題も「問題」として解かせ、例題の解答を解答例として活用したり、問題練習をできるだけ多く取り入れる。 ウ：K中ベーシックの利用 エ：習熟度別授業
第三学年	「復習などの自主学習を定着」「自ら学ぼうとする能動的な学習姿勢を支援」を意図的に組み入れるため、定期考査以外に「実力テスト」として月一回のペースで単元を重複させ、かつ1, 2年の復習も入れたテストを3学年当初より実施している。その結果の一つの傾向として、放課後や土曜補習への参加率がアップしている。	昨年度は、「関心・意欲をみる」名目で、正答よりも「意欲や考察・思考」に評価を置く形式の課題を提供したが、本年度では、「実力テスト」実施2～3週間前より試験範囲を配布して、自主的学習を促している。その結果、1, 2年生の時よりも、日常的な質問が増加してきている。	アイ：副教材等の課題学習で、A（基本～標準）問題・B（標準～発展）問題を利用しながら個々の理解度に合わせて進めていく。 また、基礎コースでは、例題も「問題」として解かせ、例題の解答を解答例として活用したり、問題練習をできるだけ多く取り入れる。 ウ：K中ベーシックの利用 エ：習熟度別授業